

政治・経済定点観測レポート

## ウズベキスタン NOW

【第 27 号:2013 年 7 月－8 月期】

- \* 本レポートは ROTOBO の協力者である現地専門家の執筆によるものです。内容は執筆者の個人的見解であり、ROTOBO の組織的見解とはいかなる意味でも関係ありません。内容の無断転載、引用は堅くお断りします。

### 経済概況

#### 2013 年 1 月～6 月期のウズベキスタンの GDP 成長率は 8 %

この数字は、2013 年上半期社会経済発展の実績を議題に開かれた閣議の席で発表されたもの。同実績によれば、伸び率の内訳は鉱工業生産高が 8.2%、農業生産高が 7.3%であった。国家予算の執行結果は GDP の 0.1%に相当する財政黒字であった。

#### ウズベキスタンの上半期の財政黒字が対 GDP 比 0.1%

2013 年 1 月～6 月期のウズベキスタン国家予算執行の結果は 504 億スム、すなわち対 GDP 比 0.1%の黒字であった。1 月～6 月期の国庫歳入は 12 兆 5,600 億スム (59 億 8,000 万ドル)、すなわち対 GDP 比 24.91%、歳出は 12 兆 5,100 億 (59 億 6,000 万ドル)、対 GDP 比 24.8%であった。国家予算の各指標は、2013 年の GDP 成長率計画値 8%を前提に作成されている。

#### 2013 年上半期、ウズベキスタンの GDP に占める中小企業の比率は 43.2%であった

これは、前年同期比 0.6 ポイントの増加である。2013 年 1 月～6 月期、中小企業は 940 万人の雇用を確保した (経済分野の全被雇用者の 75.5%)。このうち、自営業者と個人事業主が 710 万人、被雇用者を抱える中小企業と零細企業の被雇用者が 230 万人であった。中小企業の鉱工業生産高は 6 兆 5,000 億スム (全鉱工業生産高の 22.9%) となり、2012 年 1 月～6 月期に比較して 13.9%の増加となった。(中小企業による) 投資実施額は 3 兆 9,000 億スム (投資実施額全体の 32.8%) で、前年同期比 4.7%の増加となった。中小企業の商品・サービス輸出額は 13 億ドル (輸出額全体の 19.2%)、輸入額は 26 億ドル (輸入額全体の 40.7%) であった。

#### 世界銀行がウズベキスタンの GDP 総額を 510 億ドルと評価

世界銀行は、2013 年現在の国内総生産（GDP）と国民総所得（GNI）の評価に基づく世界各国の経済規模に関するデータを公表した。

### **公的債務水準に関する各国のランキングでウズベキスタンは 165 位**

格付け機関 RIA-Rating の専門家らが IMF のデータに基づいて公的債務水準に関する各国の格付け（ランキング）を作成した。国民 1 人当たりの債務額でウズベキスタンは世界 174 カ国中 165 位を占めた。ウズベキスタンの公的債務は 2012 年の実績値で国の GDP 比 8.6%であり、これは 2011 年比 0.5 ポイントの低下である。ウズベキスタンの国民 1 人当たりの公的債務は、2012 年の実績値で 150 ドルであり、2011 年比 8 ドル増加した。

## **投資政策**

### **ジザク産業特区で中国企業各社が総額 4 億ドルに及ぶ各プロジェクトを実施へ**

2013 年 7 月 3～4 日、タシケントでフォーラム「ジザク産業特区－中国各社にとっての絶好の投資機会」が開催された。その結果 21 の協定が調印され、金額総計は 1 億ドルを超えた。既報のように、4 月には中国の 4 都市（北京、杭州、蘇州および瀋陽）でウズベキスタン・中国投資フォーラムが開催され、その結果ジザク産業特区における各種ハイテク投資プロジェクトの共同実施に関する 54 の文書が調印された。これらのプロジェクトは事業費が合わせて 3 億ドルを超え、電気技術、機械製作、製薬、軽工業、食品工業、最新型建材生産、プラスチック製品生産の各分野に及ぶ。

### **ウズベキスタンがジザク産業特区のインフラ整備に約 4,800 万ドルを投入へ**

ウズベキスタン内閣は、「2013～2015 年ジザク産業特区輸送・生産・土木・公共サービスインフラ先行整備プログラム」を閣議決定によって承認した。同プログラムの枠内で、総額 2,033 万 5,000 ドルの 5 つの自動車道路整備プロジェクトと、総額 225 万 6,000 ドルの 3 つの鉄道インフラ整備プロジェクトを実施することになる。また、5 つの上水道・灌漑・下水道整備プロジェクトを実施であり、事業費は 2,480 万 7,000 ドルにのぼる。電力供給インフラの整備では 2 つのプロジェクト、総額 40 万 6,700 ドル、ガス供給インフラの整備では 2 つのプロジェクト、総額 50 万 7,100 ドル、をそれぞれ実施する予定である。

### **ナヴォイ自由産業経済特区でウズベキスタン・イタリア合弁企業が設立**

株式会社ウズトランスガスおよびイタリアの Ariston Thermo International 社により、「家庭用最新型暖房・温水ボイラー生産体制整備」投資プロジェクト実施のため、合弁企業 Ariston Thermo-UTG が設立された。プロジェクト実施第 1 段階では 200 万ユーロが投資され、暖房用ボイラーの生産を軌道に乗せ、1 年目には 1 万台のボイラーを生産する計画である。

### **ウズベキスタンが各分野に渡る総額 24 億ドルに及ぶ 47 の新プロジェクトを作成**

これらのプロジェクトは、それぞれ各種の分野別中期発展・近代化プログラムに含まれることになる。とりわけ、国営株式会社ウズベクエネルギーは総事業費 10 億ドルを投じて 2017 年までに出力 900MW の火力発電所を東部・ナマンガン州に新設する計画である。同じく、2 億 700 万ドルを投じて出力 100MW の太陽光発電所を 2015 年までにサマルカンド州に建設する予定である。国営持株会社ウズベクネフチェガスは、2013 年～2015 年に 3 億 870 万ドルを投じてタシケント市およびタシケント州に天然ガス自動計量システムを設置する計画である。国営株式会社ウズヒムプロムは、硝酸およびバサルトファイバー（玄武岩繊維）生産工場の建設に 2018 年まで 2 億 4,000 万ドルを投じる計画である。これらの投資の約 50%は外国資本による対内投資、約 30%はウズベキスタン各社の自己資金、20%はウズベキスタンの復興開発基金および各銀行の資金によって賄われることになっている。

### **国営株式会社ウズファルムプロムが総額 6,500 万ドルに及ぶ新規プロジェクトを作成**

国営株式会社ウズファルムプロム傘下の各企業は 10 の新規プロジェクトを作成した。これらのプロジェクトは「製薬・医療資材部門中期発展プログラム」に含まれることになる。これらのプロジェクトは、輸液、包帯材料の生産増強、さらに錠剤、カプセル、アンプルといったタイプの約 20 種のジェネリック医薬剤の生産体制整備を見込んでいる。投資の資金源は、各企業の自己資金 2,730 万ドル、ウズベキスタンの各銀行の融資 3,270 万ドル、外国資本による対内投資 500 万ドルとなる。既報によれば、国営株式会社ウズファルムプロムは、2011 年～2015 年に総事業費 6 億 7,680 万ドルに及ぶ製薬・医療資材部門近代化・設備更新プログラムを実施する計画である。このプログラムの枠内で 100 を超える医薬剤の生産体制が整備されることになっており、実現すれば金額ベースで医薬品市場のおよそ 50%を現地生産で占めることが可能になる。

## エネルギー・セクター

### 国営株式会社ウズベクエネルギーがシルダリヤ、タリマルジャン両火力発電所の近代化を完了

同プロジェクトは、シルダリヤ火力発電所に 3 基、タリマルジャン火力発電所に 1 基のガスエネルギー回収タービン発電機を据え付けることを見込んでいた。これらの発電機の出力は合わせて 20MW である。新規設備により、両発電所は年間 1 億 5,250 万 kW/h の電力を新たに発電することが可能となり、これらの発電所で発電された電力の原価を半分以上に減らすことが可能となった。この設備の納入企業は有限会社「テフノセルブ・AS」（モスクワ）であった。総事業費が 1,470 万ドルとなるこのプロジェクトの資金調達は、ウズベキスタン復興開発基金による融資 1,090 万ドルならびにウズベクエネルギーの自己資金 380 万ドルによって行われた。そのほかウズベクエネルギーは 2017 年までに、総額 12 億 8,000 万ドルを投じてタリマルジャン発電所に出力がそれぞれ 450MW のコンバインドサイクル発電プラント 2 基を建設する予定である。

### 日本の国際協力機構（JICA）がナヴォイ火力発電所近代化に向けてウズベキスタンに 3 億 6,000 万ドルの借款を供与

JICA とウズベキスタン政府は、公開型株式会社「ナヴォイ火力発電所」の出力増強に向けた総額 348 億円（約 3 億 6,000 万ドル）の借款に関する交換文書に調印した。期間約 40 年の優遇条件で供与された資金は技術設備の調達に向けられる。

概算見積もり 5 億 1,600 万ドルの同発電所出力増強プロジェクトでは、出力 450MW の第 2 コンバインドサイクル発電プラントならびにガス昇圧コンプレッサー・ステーションの建設が見込まれている。工期は 2 年である。ウズベクエネルギーは今年末までにプロジェクトの元請業者選定のための入札を公示する可能性がある。プロジェクトの資金調達は、JICA による借款のほかウズベクエネルギーの自己資金およびウズベキスタン復興開発基金による融資によって行われることになっている。

ちなみに、トルコの Calik Enerji Sanayi ve Ticaret AS 社とスペインの Initec 社で構成する国際コンソーシアムは 2012 年 10 月、ナヴォイ火力発電所において出力 477MW の初のコンバインドサイクル発電プラントの建設を完了した。工費は 5 億 3,000 万ドル、設備納入業者は日本の三菱重工であった。

### 国営持株会社ウズベクネフチェガスは 2013 年～2015 年、ムバレクガス処理精製工場の近代化に向けて 2 億 2,000 万ドルを振り向けることにしている

このプロジェクトでは、3つの汎用ブロックから成り、処理能力が合わせて年間 60 億 $\text{m}^3$ となる第 8 順ガス脱硫装置の建設工事を段階的に進めることになっている。このプロジェクトが完工した暁には、天然ガスから硫化水素や酸性ガスを除去する設備の稼働条件の改善が可能になる。プロジェクトの資金手当てはウズベクネフチェガスの自己資金で行われる。ちなみに、ウズベクネフチェガスは 2013 年 3 月、同じ処理能力を持つ第 7 順ガス脱硫装置の建設プロジェクトを完工した。建設工事の費用は 1 億 7,180 万ドル、請負業者はウズベクネフチェガスの下位部門であった。ムバレクガス処理精製工場の処理能力は現在、天然ガス約 300 億 $\text{m}^3$ /年、ガスコンデンセート 57 万 t/年余りである。

### **国営持株会社ウズベクネフチェガスがカシュカダリヤ州のサマンテペおよび南ウルタブラクの両ガスコンデンセート鉱床の整備工事を完工した**

総工費は 3 億 1,000 万ドル。とりわけ、「南ウルタブラクームバレクガス処理精製工場」ガスパイプライン、総延長 71km、が敷設され、処理能力がガスおよそ 30 億 $\text{m}^3$ /年の昇圧コンプレッサー・ステーションが建設された。これらの工事の完工により鉱床寿命を 24 年に、累積ガス生産量を約 430 億 $\text{m}^3$ に伸ばすことが可能となる。プロジェクトの資金手当てはウズベクネフチェガスの自己資金によって行われた。

### **国営持株会社ウズベクネフチェガスがトルクメニスタンとの国境近くにある各ガスコンデンセート鉱床の開発に 2013 年から 2014 年まで 3 億 3,400 万ドルを投入の予定**

政府は、最も大きい鉱床であるサマンテペ、ギルサンおよびタイリャクの各鉱床をはじめとする 5 つの鉱床の開発を加速することを見込むこのプロジェクトの事業化調査書 (FS) を承認した。これらの鉱床の開発により、2020 年までに毎年およそ 68 億 $\text{m}^3$ のガスと 16 万 t のガスコンデンセートの生産が可能となる。これらの鉱床群は 90 年代初めに発見されたがこれまで開発されて来なかった。埋蔵量は開示されていない。プロジェクトの資金手当ては、ウズベクネフチェガスの自己資金 2 億 1,270 万ドル、ウズベキスタン復興開発基金の融資 7,550 万ドルおよびウズベキスタンの各銀行の融資 4,620 万ドルによって行われる見通しである。

### **ウズベキスタンがトルクメニスタンから石油を輸入へ**

カザフスタンのカズモルトランスフロート (Kazmortransflot) 社は、トルクメニスタンのキヤンルィ・オフショア鉱床からカザフスタンの港、アクタウまで、そこからタンク車 (貨車) でウズベキスタンの製油所へ石油を出荷する石油輸送契約をトレーダー

である ARIA Petroleum と調印する意向である。キヤンルィ鉱床における生産はマレーシアの Petronas Carigali 社が行う。このルートが妥当であると認められれば ARIA Petroleum とカズモルトランスフロートの間で月間およそ 5 万 t のトルクメニスタン産石油の長期輸送契約が調印されることになる。ウズベキスタンの石油・コンデンセート生産量は 2012 年、国内需要が 440 万 t であるのに対して、歴史的な低水準である 317 万 t（このうち石油 156 万 t）まで減少した。慢性的な燃料不足に悩まされているウズベキスタンは、近隣諸国からの原油の買い付け量を増やすことを余儀なくされている。

ちなみに、ウズベキスタンは 2003 年初から南カザフスタンのクムコリ鉱床の石油を国内に運び込んでおり、これをフェルガナ製油会社の製油所で精製している。石油は鉄道輸送で調達している。ウズベキスタンには 3 つの製油所があり、これらを合わせた処理能力は約 1,120 万 t/年である。

### **国営持株会社ウズベクネフチェガスは 4 つの投資ブロック探査のための投資家の募集を継続**

4 つの投資ブロックとは、ホラズム、ブハラ・ヒバ石油ガス賦存地域のメシエクリートウスコイスキーおよびアクジャルならびにウシュルト地域チンバイの各ブロックである。地質探査作業への投資規模は概算で 5 年間、2 億 6,000 万ドルと見積もられている。これらの鉱区の探査は、2008～2012 年に行うという計画がすでに立てられたことがあり、アラブ首長国連合の IPC 社および Mubadala 社ならびにロシアのストロイガスオイル社と事前合意が成立していたが協定書に調印するまでには至らなかった。

ウズベクネフチェガスの資料によれば、有望な炭化水素資源鉱区の総面積の 60% 余り、予想資源量にして 41 億標準燃料 t（予想資源量全体の 52.5%）がすでに開発のために外国各社に引き渡されている。すでにライセンスが交付された区域ではガспロムとルクオイル、Kogas と KNOC、CNPC と Petrovjetnam が地質探査ならびに開発を行っている。

2007 年から 2012 年にかけて外国各社によって 17 の石油・ガス鉱床、予想資源量にして約 1 億 3,800 万燃料 t が発見された。この期間の地質探査作業に向けられた外国資本による内国投資は 38 億 2,000 万ドルであった。

### **ナヴォイ州におけるウラン地質調査実施に関する日本との協定が承認された**

地質探査権を得たのは日本の JOGMEC、協定期間は 5 年である。JOGMEC は Juzkuduk と Tamdiyukuduk-Tulyantash の 2 つの有望な区域で地質探査を行い、（商業開発が可能な）砂岩型ウラン鉱床の存在が明らかになった場合にはこれを開発する。契約区域で（商業

開発が可能な) 鉱床が発見された場合には、ウズベキスタンと直接交渉をして生産物分与協定を締結する排他的権利が日本側に付与される。投資者および下請業者の従業員らは、協定実施の枠内で得た収入に関して個人所得税を免除された。JOGMEC 自体に対してもあらゆる種類の税金および共和国社会基金への義務的納付金の納付が免除された。JOGMEC はまた、輸入される設備にかかる関税その他の通関時の納付金が 5 年間免除された。

## 輸送セクター

### JICA が「マラカンドーナヴォイープハラ」区間鉄道電化向けに 2 億 5,000 万ドルをウズベキスタンに供与へ

プロジェクトの総工費は 4 億 5,000 万ドルで、うち 2 億ドルはウズベキスタン国有鉄道が自己資金から計上する。区間の電化のほか、プロジェクト枠内で付随するインフラの建設が行われる。ウズベキスタンでは鉄道の総延長が 4,200km であるが、うち電化されているのは 1,000km に過ぎない。ウズベキスタンでは合わせて約 2,000km の鉄道電化が計画されている。

### ウズベキスタンがタジキスタン領土を迂回する「アングレンーパプ」ルートの鉄道建設を決定

同プロジェクトは、工費が概算見積りで 20 億ドル、2014～2015 年に実施されることになっている。新設のこの鉄道路線は電化路線となり、高さが海拔 2,200m 余りのカムチク峠を越えて敷設される。

## 自動車セクター

### UzDaewoo のロシアでの売上高が今年上半期 34%の減少

2013 年 1 月～6 月期、ロシア市場におけるウズベキスタン車の売り上げ台数は 2 万 7,274 台であった。ちなみに、前年同期の販売台数は 4 万 1,446 台であった。今年 6 月、ロシア国民は 3,594 台のウズベキスタン車を購入したが、これは前年同月 (9,256 台) 比で 61%の減少である。ロシア市場で最も人気のあるウズベキスタン車であるネクシアは、ロシアにおける新車販売ベスト 25 のランキングで 23 位に沈んだ。

### 株式会社ウズアフトロムが総事業費 4 億 6,000 万ドルを超える 10 のプロジェクトを準備中

これらのプロジェクトは 2015 年末までに、自動車工業製造現地化プログラムの枠内で自動車部品の生産を増強する予定である。同社はとりわけ、3 億 1,000 万ドルの事業費を投じてトランスミッション生産工場をつくる予定である。9,000 万ドルの費用を投じておよそ 1,000 万㎡の基本ガラス（板ガラス）の生産体制を確立するプロジェクトもこの中に含まれる。そのほか、2016 年までに 5,000 万ドルの事業費を投じて、アングレン自由産業特区に生産基地を置き、ブレーキシステム・エレメントの生産体制および铸件部品の加工体制を確立する計画もある。

## その他のセクター

### ウズベキスタンがテビンブラク鉄鉱石鉱床の開発費用を 31 億ドルと見積もる

公開型株式会社「ウズベキスタン製錬コンビナート」（ウズメトコンビナート、タシケント州ベカバド）と国家地質・鉱物資源委員会が、年間 150 万 t の鉄を生産する工場の建設を見込むプロジェクトの作成に着手した。プロジェクト実施期間は 2020 年末まで。テビンブラク鉱床は 1937 年に発見され、予想資源量は鉄鉱石 35 億 t である。投資コストが大きすぎてこの鉱床はこれまで開発されて来なかった。韓国の POSCO は今年、プロジェクトの採算が合わないとして開発への参画を辞退した。テビンブラク開発プロジェクトは、ウズベキスタンの鉄鋼製品の 90% 余りを生産するウズメトコンビナートの自前の原料基地をつくるために、復活した。

### ウズベキスタンが 2014 年に工費が 14 億 4,000 万ドルとなる水プロジェクトの実施に着手へ

農業・水利省では今年、国内諸地域の水資源管理システムの近代化に関する 23 のプロジェクトの実施に向けた準備が最終段階に入っている。プロジェクト実施期間は 2017 年末までである。これらのプロジェクトの枠内で国内 11 の州で 137 のポンプステーションの改造を行い、用水路や集水溝を掃除するための掘削機やブルドーザーを各地の灌漑システム流域管理局に備え付け、国内北部の幹線集水溝の改造を行う計画である。プロジェクトに必要な資金は国際金融機関からの借り入れ約 10 億ドルならびにウズベキスタンの国家予算資金で調達することになっている。